

【遺跡の位置】

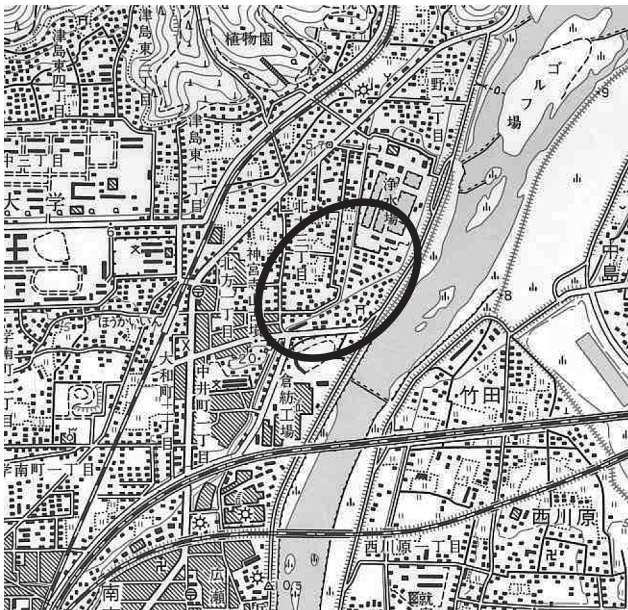


図1 遺跡の位置 S = 1/25000



図2 調査区の位置 S = 1/10000

【遺跡の概要】

岡山市北区北方～三野に位置する北方長田遺跡は、旭川西岸に位置する、弥生時代～中世にかけて集落遺跡で、三野浄水場の水質試験所建設に伴い、岡山市教育委員会により発掘調査が行われました。

発掘調査では、旭川に接した部分に形成された微高地上、に弥生時代中期末頃から集落が形成されているのが確認されました。その後中世末期まで遺構が形成され、人の営みが認められますが、調査地点において集落が形成されているのは弥生時代中期末～古墳時代前期までです。その後は中世段階に溝や掘立柱建物が少し見られる以外は、数多くの溝や河道が検出され、集落のほずれのような景観を呈していたと思われます。

弥生時代の集落からは、中期末から後期にかけての土器や石器が多数出土しています。また、中世の遺構からは、備前焼、亀山焼の甕や播鉢が、また中世の終わりから近世にかけての溝からは、志野焼等の陶器も出土しています。

調査地点は北方長田遺跡の遺跡の北東端に該当すると考えられ、弥生時代以降の集落はもう少し南側あるいは東側に広がっていたと思われます。

【文献】

岡山市教育委員会 2020年 『北方長田遺跡—旭川下流の弥生時代中期末から古墳時代前期の集落遺跡—』

【交通】

岡電バス・宇野バス「水源池」下車徒歩2分

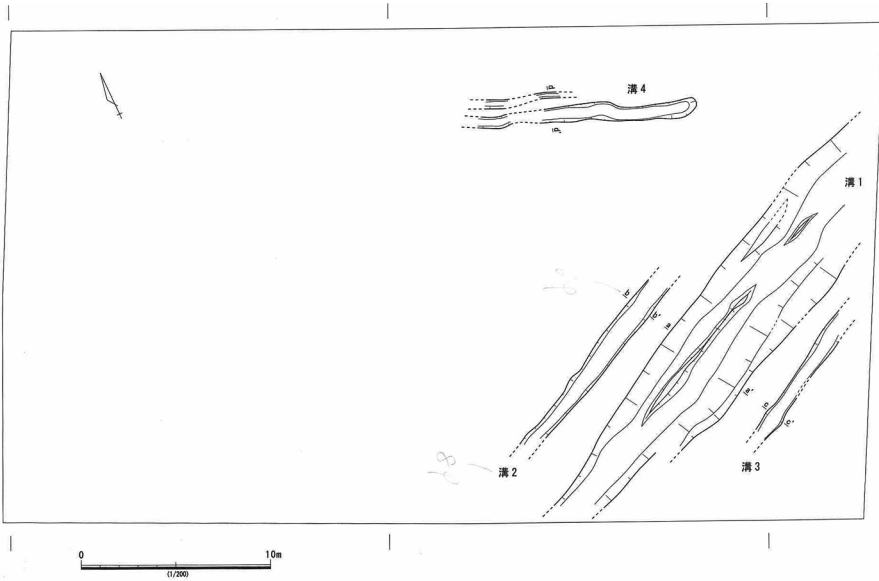


図3 近世・近代

S = 1/400

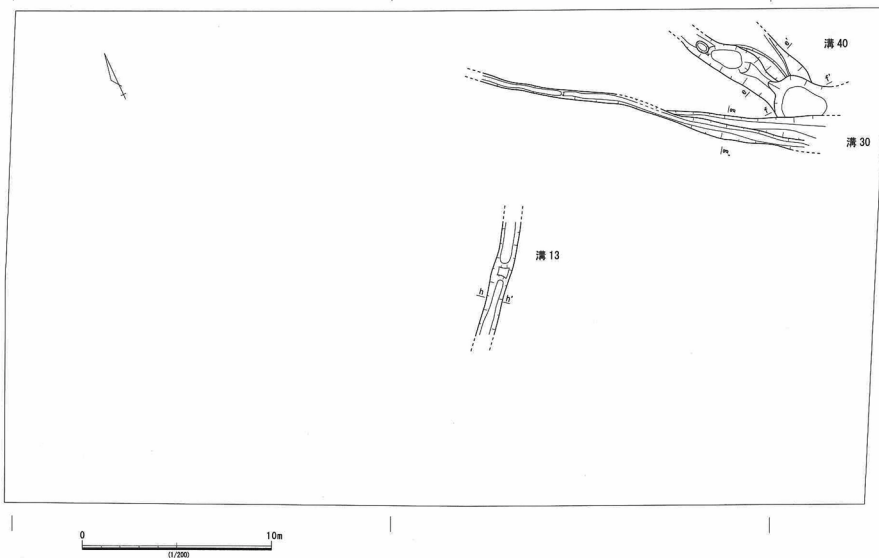


図4 中世後半

S = 1/400

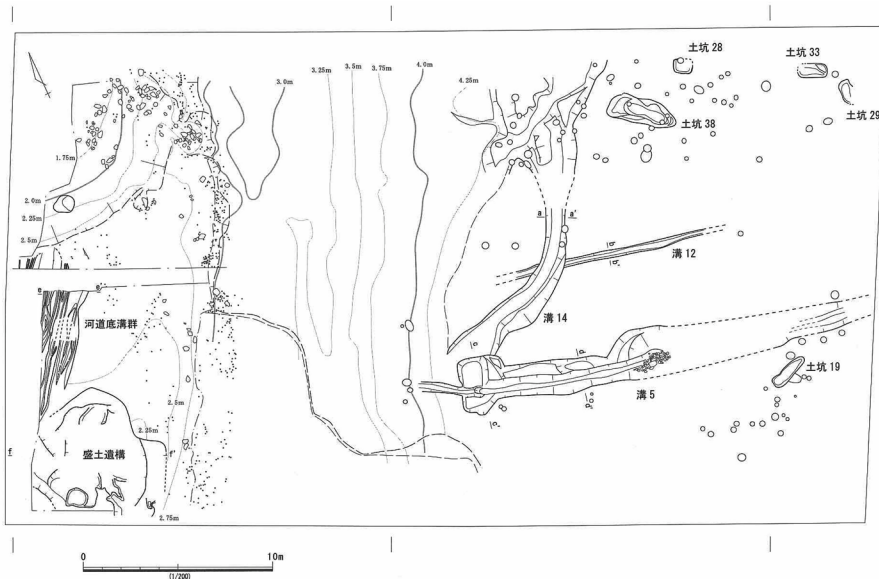


図5 中世前半～古代

S = 1/400

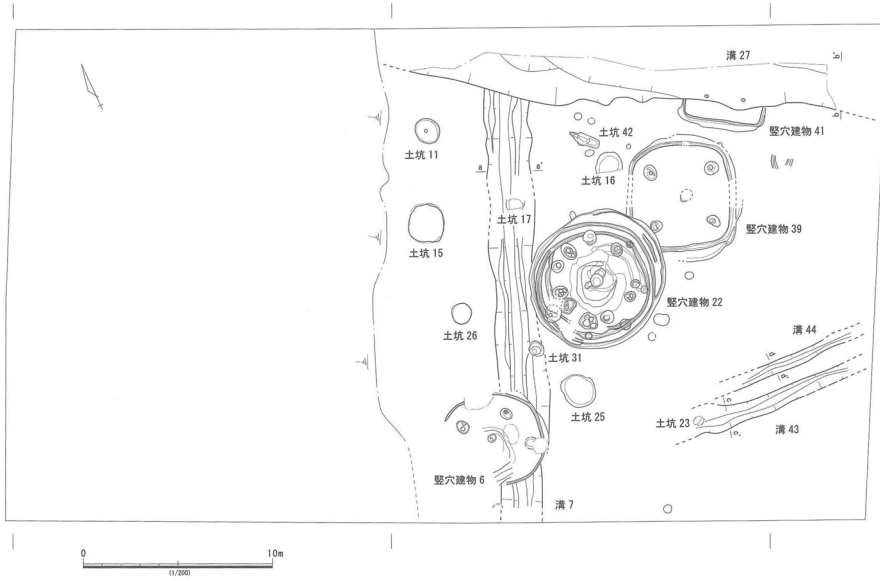


図5 弥生時代～古墳時代  
S = 1/400

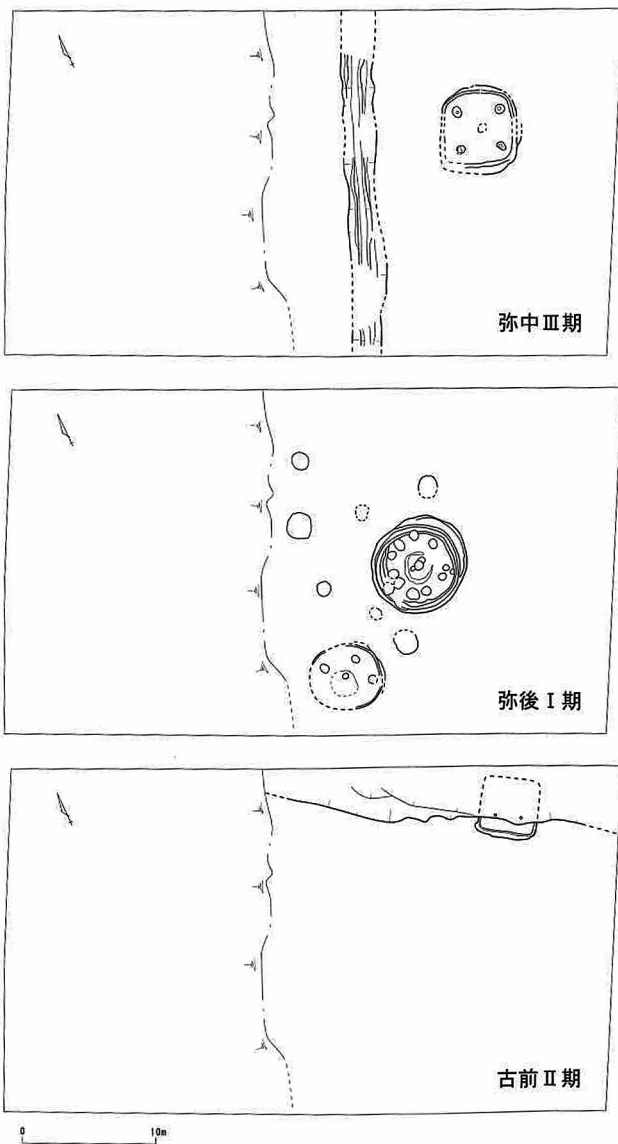
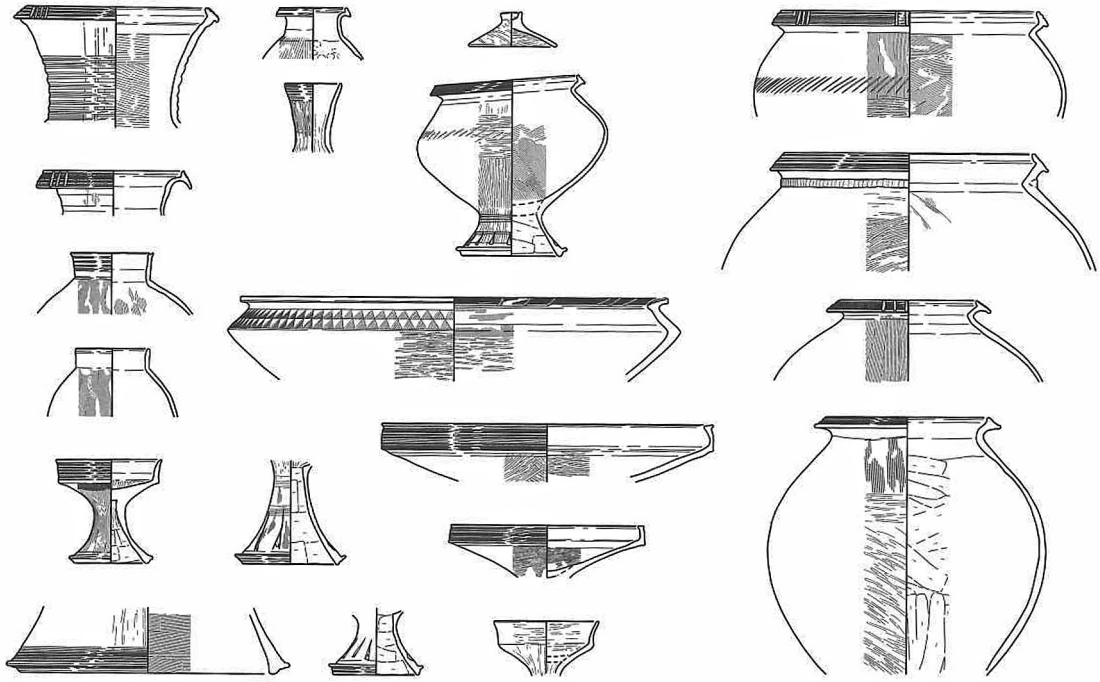


図6 弥生時代～古墳時代集落の変遷

中  
Ⅲ  
期



後  
Ⅰ  
期

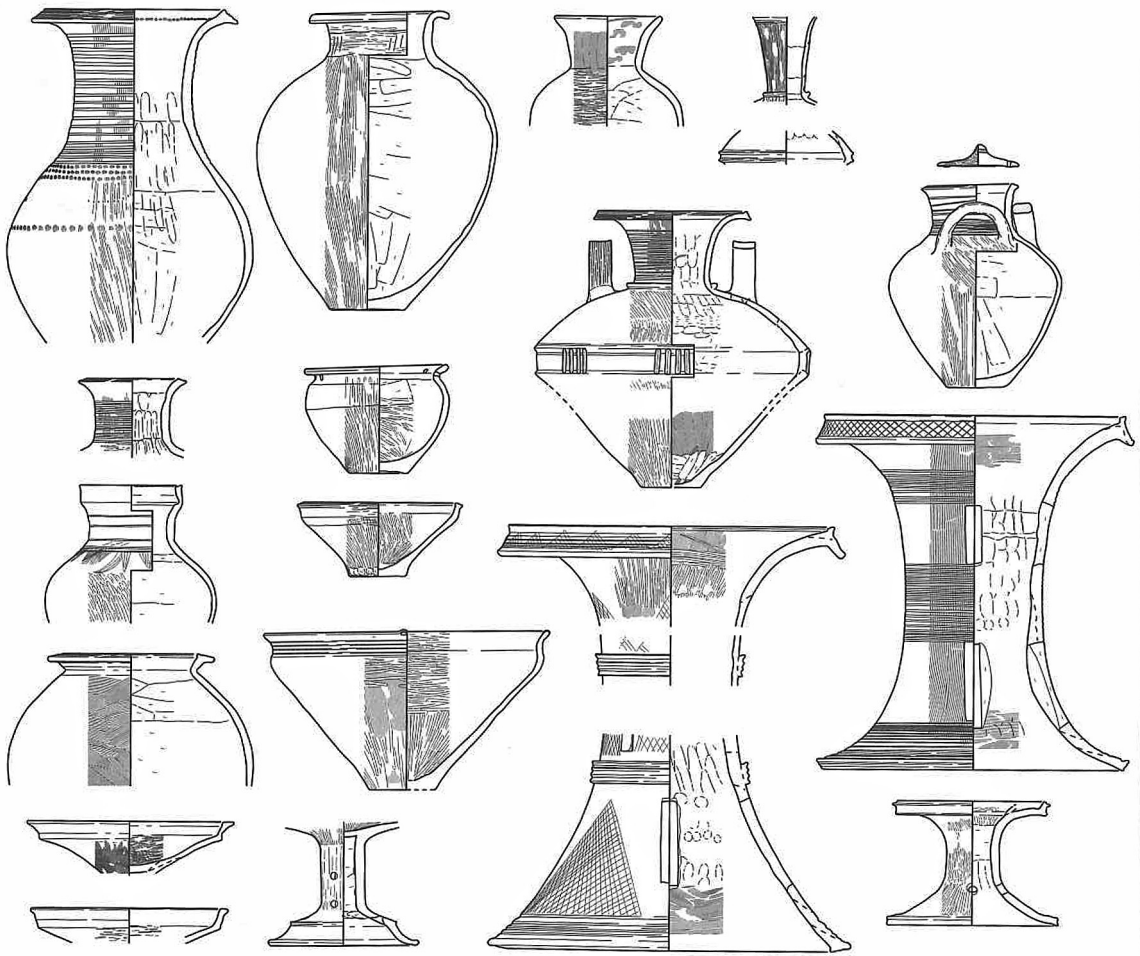


図7 出土した弥生土器